

しょくぜんのことば

小学一年 さかい まりな

「おおくのいのちみなさまのおかげにより、このごちそうをめぐまれました。ふかくごおんをよろこび、ありがたくいただきます。」
とわたしは、一日三回ごはんのまえに手をあわせます。わたしはこのことが好きです。

わたしは、なつやすみにおじいちゃんにあいにいき、せんそうのはなしをききました。おじいちゃんは、九十五さいのおぼうさんです。そのとき、おじいちゃんは十四さいのがくせいでした。でもべんきょうはさせてもらえなくて、まいにちくんれんをしていたそうです。せんそうちゅうは、いまのわたしたちのように、じゆうに本がよめなかったそうです。ものがなんにもなかったからです。一ばんつらかったのは、おてらのかねをもっていかれたことで、おてらのかねは、せんそうでつかうぶきのざいりょうにかえられたそうです。それをきいて、わたしは、すごくかなしかったです。でも、おじいちゃんはいいました。

「一ばんたいせつなのはいのちだよ。いきているだけでありがたい。」

わたしは、おじいちゃんのことおりだとおもいました。ものはかえるけど、いのちはかえないからです。せんそうちゅうのおじいちゃん、いつもおなかがへっていたそうです。たべものがなくて、いもばかりたべていた、とおじいちゃんはわらいました。いもがないときは、むしも木のねっこもたべたそうです。そのはなしをきき、びっくりしました。いまはそんなものはたべないし、わたしはそんなものたべたくありません。でも、いきるためなら、たべるかもしれないとおもいました。

これからも、一日三回手をあわせようとおもいます。ごはんをたべられていくことは、すごくありがたいことだからです。